

## 春夏冬話



親や身近な大人に愛されて育った子どもは、人を信じる心や自尊感情が生まれ、生きる力の基礎が育まれるといいますが、「子育ては親育ち」というように、親は子どもから学ばされることが多いものです。第5号のテーマは、子育てです。

## 子供叱るな来た道じゃ 年寄り笑うな行く道じゃ

大阪大学名誉教授小野田正利さんの「モンスターペアレント論を超えて」（内外教育に連載）を読み、次の詞を思い出しました。

子供叱るな来た道じゃ 年寄り笑うな行く道じゃ

来た道行く道二人旅 これから通る今日の道 通り直しのできぬ道

作者は不詳ですが、一説には犬山市中のビラに書かれていた文を、永六輔さんが『大往生』に記載したことで広まったと言われているようです。

わが子に対して、やり過ぎと思われるような援護をし、苦い経験も失敗もさせないようにする保護者の態度や行為のことを「過保護」と言うそうです。2017年には、『過保護のカホコ』というテレビドラマも放映されました。記憶に残っている人もいらっしゃるのではないのでしょうか。親は自分の子どもをかわいく思い、嫌な思いをせず楽しく元気に成長してほしいと願っていることもあるでしょう。しかし、度が過ぎると「モンスターペアレント」とか「ヘリコプターペアレント」とか「カーリングペアレント」と呼ばれてしまうこともあります。

『ヘリコプターペアレント』とは、ホバリングするヘリコプターのように、自分で考えて判断ができる年齢の子どものまわりを旋回して干渉やコントロールをしようとする親のことです。上空から常に子どもを監視し、何か起きるたびにすぐに飛んでくるヘリコプターのような保護者を意味します。デンマークで生まれた『カーリングペアレント』という言葉は、わが子の行く手にある障害物を取り除き、氷上をブラシでこすってストーンが思い通りのコースに行くようにする行為を指します。

共通するのは、子ども自身が解決すべき問題を、先走って保護者が「よしな」に片づけてしまうことです。それによって、自立した大人になれない子どもたちも増えているのではないのでしょうか。『かわいい子には旅をさせよ』という言葉も昔からあります。子どもにとって、保護者は何をすべきかを判断すること、その判断基準を学び続けることも必要なのではないのでしょうか。（by O・M）



## 日本語にしかない言葉「甘え」？ ～『自立と甘え』～



一人の人間が、精神的にも経済的にも自立するということは、そうたやすいものではありません。「自立」と「甘え」の関係について考えてみたいと思いますが、「自立を促すためには、子どもたちを甘えさせてはいけない」などという話をするつもりはありません。

一説によれば、「甘え」という単語は、英語にもフランス語にもドイツ語にもヘブライ語にも中国語にもなく、日本語にしかないそうです。

上手に「甘える」「甘えさせる」ことは、「自立」にとって大切なことです。ある研究では、幼児期に母親が、ほとんど抱くこともなく、子どもを突き放してしまうと、子どもは言葉の習得や情緒の発達が遅れてしまうそうです。子どもの能力や情緒は、親に甘えることによって、身に付いたり、発達したりします。これは、幼児期以降の「自立」や「生き方」にも関わってくることです。

上手に「甘える」ことができる子は、情愛や感謝を身に付けることができます。「私は、親に愛情をもって育ててもらった。成長を喜んでもらえた。」→「本当にうれしかった。」→「私も人にうれしい思いをさせたい。」「将来、こんな家庭をつくりたい。」となるでしょう。

上手に「甘えさせる」ことができる親は、寛容です。「ダメなことはダメだけれど、ここは親として、人生の先輩として許してあげよう。」→「成長に失敗はつきもの。見守っていこう。」→「失敗を乗り越えて挑戦する我が子は、本当にかわいい。頼もしい。」となるでしょう。

親子関係の中で培われた信頼関係は、「自立」の中で、他人にもあてはめられていきます。他人にも上手に「甘え」たり、「甘え」させたりしながら、豊かな人間関係を築いていけるようになるのです。

（by M・O）